

## 1. 略歴

1998年3月	東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
1998年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻社会学専門分野修士課程入学
2000年3月	同 課程修了
2000年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻社会学専門分野博士課程進学
2003年3月	同 単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD・東京大学) (～2006年3月)
2006年11月	博士 (社会学) (東京大学) 取得
2007年2月	総合研究大学院大学葉山高等研究センター上級研究員 (～2007年3月)
2007年7月	東京大学産学連携本部リサーチフェロー (～2007年11月)
2007年12月	総合研究大学院大学葉山高等研究センター上級研究員 (～2010年3月)
2010年4月	総合研究大学院大学学融合推進センター特別研究員 (～2011年3月)
2011年5月	総合研究大学院大学先導科学研究科特別研究員 (～2012年3月)
2012年4月	東北大学大学院文学研究科助教 (～2012年10月)
2012年11月	東北大学国際高等研究教育機構先端融合シナジー研究所助教 (～2013年3月)
2013年4月	東北大学国際高等研究教育機構学際科学フロンティア研究所助教 (名称変更) (～2018年3月)
2014年2月	Visiting Researcher, Institute for Research in the Social Sciences, Stanford University (～2015年8月)
2018年4月	東北大学災害科学国際研究所助教 (～2019年3月)
2019年4月	東北大学大学院文学研究科准教授 (～2022年3月)
2022年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 主要業績

#### (1) 博士論文

瀧川裕貴, 2006, 『現代リベラリズムの理論構図と社会学的規範理論の展開』(東京大学人文社会系研究科), 231頁

#### (2) 著書

盛山和夫・浜田 宏・武藤正義・瀧川裕貴, 2015, 『社会を数理で読み解く—不平等とジレンマの構造』有斐閣, 344頁  
鳥海不二夫 (編著)・石井晃・岡田勇・上東貴志・小林哲郎・榊剛史・笹原和俊・高野雅典・瀧川裕貴・常松淳・三浦  
麻子・水野貴之・山本仁志・吉田光男, 2020, 『計算社会科学入門』丸善出版, 307頁

#### (3) 学術論文

瀧川裕貴, 2002, 「規範性と人格—パーフィット人格論批判」『ソシオロギス』26号: 1-18.

瀧川裕貴, 2003, 「平等主義的リベラリズムは可能か?」『ソシオロギス』27号: 86-103.

瀧川裕貴, 2006, 「平等の論理—リベラリズムとの関係を軸にして」土場学・盛山和夫編『数理社会学シリーズ4 正義  
の論理—公共的価値の規範的社会理論』勁草書房: 79-100.

瀧川裕貴, 2007, 「公共社会学論争の検討—社会学的規範理論の定立に向けて」『ソシオロギス』31号: 20-38.

瀧川裕貴, 2008, 「科学の社会学とオーラルヒストリーの方法」『科学におけるコミュニケーション2007』総合研究大学  
院大学: 264-90.

瀧川裕貴, 2009, 「互恵性に基づく平等の規範理論」『理論と方法』vol. 24 (1): 21-39.

加藤直子・瀧川裕貴, 2009, 「科学研究所一般公開日における来場者調査報告書」『科学におけるコミュニケーション  
2009』総合研究大学院大学: 232-54.

瀧川裕貴, 2010, 「オーラルヒストリーアーカイブズ—オーラルヒストリーの収集および分析戦略について」『大学利用  
機関の歴史とアーカイブス 2009』総合研究大学院大学: 131-41.

瀧川裕貴, 2011, 「科学の社会学—ブルデューの科学社会学を中心に」『科学と社会 2010』総合研究大学院大学: 113-58.

関口卓也・瀧川裕貴, 2011, 「平等と排除のジレンマ—ネットワーク上でのマッチングによる不平等の生成メカニズム」  
『理論と方法』vol. 26 (1): 123-40.

瀧川裕貴, 2011, 「持続する不平等を説明する—相対的リスク回避モデルを中心に」『理論と方法』vol. 26 (1): 215-23.

- 瀧川裕貴, 2012, 「現代日本における社会認知様式としてのイデオロギーの有効性とその有効性感覚に関する計量分析」『朝日新聞 3000 人世論調査「あなたにとって政治とは」データの二次分析研究成果報告書』東京大学社会科学研究所: 124-143.
- 瀧川裕貴, 2012, 「信頼と社会関係資本—コールマンの分析的公共社会学」盛山和夫・上野千鶴子・武川正吾編『公共社会学 1—リスク・市民社会・公共性』東京大学出版会: 51-69.
- Horiuchi, S., Kanazawa, Y., Suzuki, T., and Takikawa, H., 2013, “Who gain resources from which social capital? A Mathematical Review,” *Social Capital: Theory, Measurement and Outcomes*, NOVA Publisher: 3-28.
- 瀧川裕貴, 2013, 「現代日本における所得の不平等—要因の多次元性に着目して」佐藤嘉倫・木村敏明編『不平等生成メカニズムの解明』ミネルヴァ書房: 207-232.
- 瀧川裕貴, 2014, 「1992-2002 年における若年自営層の社会階層的地位の変化」『家庭環境から見た若年者の就業とライフスタイルに関する二次分析—公的統計の匿名データと社会調査の個票データを利用して』東京大学社会科学研究所: 154-69.
- 瀧川裕貴, 2014, 「福祉：なぜ自殺するのか—アノミー」数理社会学会（監修），小林循・金井雅之・佐藤嘉倫・内藤準・浜田宏・武藤正義編『社会学入門—社会をモデルでよむ』朝倉書店（第 11 章「福祉」）: 101-9)
- 瀧川裕貴, 2014, 「市場—市場が社会秩序であるとはどういうことか」橋本努編『現代の経済思想』勁草書房: 425-50.
- 瀧川裕貴, 2015, 「ソーシャルキャピタルと社会統合」『日本大学法学紀要』56 号: 459-69.
- 大林真也・瀧川裕貴, 2016, 「『理論と方法』におけるテーマの 30 年, 方法の 30 年」『理論と方法』Vol. 31 (1): 99-108.
- Obayashi, S., Inagaki, Y., and Takikawa H., 2016, “The Condition for Generous Trust,” *PLoS ONE* 11(11): e0166437.
- 瀧川裕貴・阪本拓人, 2017, 「政党政治の道徳分析—日米議会のスピーチデータを用いた多面的分析」『第一回計算社会科学ワークショップ論文集』: 1-10.
- 阪本拓人・瀧川裕貴, 2017, 「民主的討論の構造と動態—トピックモデルによる日米議会スピーチデータの比較分析」『第一回計算社会科学ワークショップ論文集』: 1-8.
- Takikawa, H. and Nagayoshi, K., 2017, “Political Polarization in Social Media: Analysis of the ‘Twitter Political Field’ in Japan,” *The Proceedings of the 2017 IEEE International Conference on Big Data*: 3061-8.
- Sakamoto, T. and Takikawa, H., 2017, “Cross-National Measurement of Polarization in Political Discourse: Analyzing Floor Debate in the U.S. and the Japanese Legislatures,” *The Proceedings of the 2017 IEEE International Conference on Big Data*: 3022-8.
- 瀧川裕貴・阪本拓人, 2018, 「国会会議録データを用いた自然災害に関する集合的認知ダイナミクスの分析」『第二回計算社会科学ワークショップ論文集』: 1-7.
- 瀧川裕貴, 2018, 「世代内移動ネットワークの確率的ブロックモデリングによる階層構造の同定」吉田崇編『2015 年 SSM 調査報告書 3 社会移動・健康』: 253-76.
- 毛塚和宏・白波瀬佐和子・瀧川裕貴, 2018, 「教育達成の世代関係からみる階層間格差の変容—出生力低下を考慮した高学歴子ども数に着目して」荒牧草平編『2015 年 SSM 調査報告書 3 人口・家族』: 27-43.
- 瀧川裕貴, 2018, 「ソーシャルメディアにおける公共圏の成立可能性—公共圏の関係論的定式化の提唱と Twitter 政治場の経験的分析」遠藤薫編『ソーシャルメディア時代の公共性—リスク社会を読み解く』東京大学出版会: 63-95.
- 瀧川裕貴, 2018, 「ソーシャルキャピタルと社会秩序」佐藤嘉倫編『ソーシャルキャピタルと社会』ミネルヴァ書房: 18-40.
- 瀧川裕貴, 2018, 「社会学との関係から見た計算社会科学の現状と課題」『理論と方法』Vol. 33 (1): 132-48.
- Nakai, Y. and Takikawa, H., 2018, “Triadic Social Structure Facilitates Backing for Crowdfunding Projects,” *The Proceedings of the 2018 IEEE International Conference on Big Data*: 4346-51.
- 瀧川裕貴, 2019, 「社会学におけるビッグデータの分析の可能性」『社会と調査』22 号: 16-22.
- Tamura, K. and Takikawa, H., 2019, “Modelling the Emergence of an Egalitarian Society in the N-player Game Framework,” *Journal of Theoretical Biology* 461: 1-7.
- Takikawa, H. and Sakamoto, T., 2019, “The Moral-emotional Foundations of Political Discourse: a Comparative Analysis of the Speech Records of the US and the Japanese Legislatures,” *Quality & Quantity* 54: 1-20.
- 瀧川裕貴, 2019, 「分析社会学と因果推論」『理論と方法』vol. 34 (1): 47-64.
- 瀧川裕貴, 2019, 「戦後日本社会学のトピックダイナミクス：『社会学評論』の構造トピックモデル分析」『理論と方法』vol. 34 (2): 238-261.
- 瀧川裕貴, 2020, 「世界および日本におけるデジタル社会調査」『社会学評論』71 号 1 巻: 84-101.
- 稲垣佑典・瀧川裕貴・大林真也, 2020, 「オンライン実験の進め方—クラウドソーシング・サービスを利用したオンライン実験を例に」『理論と方法』vol. 35 (1): 128-144.

#### (4) 学会発表

- 瀧川裕貴,「生命倫理の社会哲学」第73回日本社会学会大会, 広島国際学院大学(広島), 2000年11月
- 瀧川裕貴,「平等主義的リベラリズムは可能か?」第75回日本社会学会大会, 大阪大学(大阪), 2002年11月
- 瀧川裕貴,「数理社会学と規範理論の対話—J・コールマン『社会理論の基礎』の可能性」第80回日本社会学会大会, 関東学院大学(神奈川), 2007年11月
- 瀧川裕貴,「コールマン社会理論の新しい基礎を再構築する—数理社会学と規範理論の対話へ向けて」第45回数理社会学会大会(基調報告), 成蹊大学(東京), 2008年3月
- Takikawa, H., “On Game Theoretical Analysis of Norms and Justice,” *Logic, Game Theory, and Social Choice* 6, Tsukuba Center for Institutes, Ibaraki, Japan, August 2009.
- 瀧川裕貴,「規範的社会理論の数理とその自然主義化について」2009年日本数理生物学会大会, 東京大学(東京), 2009年9月
- 瀧川裕貴,「格差生成メカニズムに関する Breen=Goldthorpe 命題の単純な証明とその含意」第49回数理社会学会大会, 立命館大学(京都), 2010年3月
- Takikawa, H., “On the Analytical Strategy for the Oral History Project ‘The first ten years of KEK,’” The 4S/JSSTS meeting in Tokyo, Tokyo, Japan, August 2010.
- 瀧川裕貴,「H.ホワイト社会理論の全体的構成の解明」第5回日本社会学理論学会大会, 長崎大学(長崎), 2010年9月
- 瀧川裕貴,「H.ホワイトの理論社会学における『公共』概念」第83回日本社会学会大会, 名古屋大学(愛知), 2010年11月
- Takikawa, H., “The Conditions of Persistent Inequality in Educational Attainment: The Revision of Breen-Goldthorpe Model and Its Implications,” *Todai-Yale Initiative*, Yale University, New Heaven, CT, U.S., November 2010.
- 瀧川裕貴,「社会学的行為論は何をめざすべきか」第52回数理社会学会大会(シンポジウム報告), 信州大学(長野), 2011年9月
- 瀧川裕貴,「ベイズ学習は順位制を促進するか」2011年日本数理生物学会大会, 明治大学(東京), 2011年9月
- 瀧川裕貴,「個体によるベイズ学習が順位制の成立に与える影響」第27回個体群生態学会大会, 岡山大学(岡山), 2011年10月
- 瀧川裕貴,「ベイズ学習は順位制を促進するか?」ゲーム理論ワークショップ2012, 静岡大学(静岡), 2012年3月
- 瀧川裕貴,「ベイズ学習は順位制を促進する」第53回数理社会学会大会, 鹿児島大学(鹿児島), 2012年3月
- 瀧川裕貴,「社会的地位階層制の数理モデル—Gould モデルの改良」第53回数理社会学会大会(萌芽), 鹿児島大学(鹿児島), 2012年3月
- Takikawa, H., “A Relational Theory of Status Hierarchy: An Extension of Gould Model to Incorporate the Multidimensional Choices,” the 5th Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Colorado Convention Center, Denver, CO, U.S., August 2012.
- 瀧川裕貴,「現代日本の中高年層における社会関係資本の格差と社会的孤立の発生メカニズムに関する計量分析」第54回数理社会学会大会, 関東学院大学(神奈川), 2012年8月
- 瀧川裕貴,「現代日本の中高年層における社会関係資本の格差」第85回日本社会学会大会, 札幌学院大学(北海道), 2012年11月
- Takikawa, H., “A Mathematical Model of Status Hierarchy,” Joint Symposium of UC Riverside and CSSI, Tohoku University, Sendai, Japan, January 2012.
- Takikawa, H., “A Relational Theory of Status Hierarchy,” 2013 INSNA Xi’an Conference, Xi’an Jiaotong University, Xi’an, China, July 2013.
- Takikawa, H., “Uncovering Relational Structure of Position Generated Social Networks Based on the Duality of Positions and Actors,” Sunbelt XXXIV International Sunbelt Social Network Conference, Trade Winds Island Resorts, St. Pete Beach, FL, U.S., February 2014.
- Takikawa, H. and Obayashi, S., “The Condition of Generous Trust,” the 7th International Network of Analytical Sociologists (INAS) Conference, The University of Mannheim, Mannheim, Germany, June 2013.
- Inagaki, Y., Obayashi, S., and Takikawa H., “The Condition of Generous Trust,” the XVIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, July 2014.
- Takikawa, H. and Parigi, P., “A Method for Generating a Macro Structure of Networks from Egocentric Networks,” the 12th Conference of the European Sociological Association, The Czech Technical University, Prague, Czech, August 2015.
- 瀧川裕貴,「関係社会学の数理社会学的基礎づけをめぐる」第4回科学社会学会大会, 東京大学(東京), 2015年10月

- 瀧川裕貴,「計算社会科学的アプローチによる数理社会学史の試み—『理論と方法』に関する構造トピックモデル分析」第 61 回数理社会学大会, 上智大学 (東京), 2016 年 3 月
- Takikawa, H. and Parigi, P., “Empirically Agent Based Modeling of Occupational Position Network in Japan,” the 3rd ISA Forum of Sociology, Vienna, Austria, July 2016.
- Takikawa, H. and Parigi, P., “The Duality Revisited: A New Methodology for Bipartite Networks,” American Sociological Association The 111th Annual Meeting Oral Presentation, Seattle, WA, U. S., August 2016.
- 瀧川裕貴,「戦後日本社会学史への計算社会科学的アプローチ—『社会学評論』1954-2015 の構造トピックモデルによる分析」第 89 回日本社会学大会, 九州大学 (福岡), 2016 年 10 月
- 瀧川裕貴・阪本拓人,「政党政治の道德分析—日米議会のスピーチデータを用いた多面的分析」第一回計算社会学ワークショップ, 学習院大学 (東京), 2017 年 2 月
- 瀧川裕貴,「日米議会における政治的討論の大規模テキスト解析による道德社会的分析」ソーシャルコンピューテーション研究会, 首都大学東京 (東京), 2017 年 3 月
- Takikawa, H. and Sakamoto, T., “Moral Foundations of Political Discourse: Comparative Analysis of the Speech Records of the US Congress and the Japanese Diet,” International Conference on Computational Social Science, GESIS, Cologne, Germany, July 2017.
- 瀧川裕貴,「社会学理論はいかなる種類の経験的データを必要とするか」第 90 回日本社会学大会, 東京大学 (東京), 2017 年 11 月
- Sakamoto, T. and Takikawa, H., “Cross-National Measurement of Polarization in Political Discourse: Analyzing Floor Debate in the U.S. and the Japanese Legislatures,” 2017 IEEE International Conference on Big Data, Boston, MA, U.S., December 2017.
- Takikawa, H. and Nagayoshi, K., “Political Polarization in Social Media: Analysis of the ‘Twitter Political Field’ in Japan,” 2017 IEEE International Conference on Big Data, Boston, MA, U.S., December 2017.
- 瀧川裕貴・阪本拓人,「国会会議録データを用いた自然災害に関する集会的認知ダイナミクスの分析」第 2 回計算社会学ワークショップ, 東京大学 (東京), 2018 年 3 月
- 瀧川裕貴,「分析社会学の方法論へのインパクト」第 65 回数理社会学大会シンポジウム「挑戦する分析社会学」, 成蹊大学 (東京), 2018 年 3 月
- Takikawa, H., Inagaki, Y., and Obayashi S., “Online Randomized Experiment for Identifying the Mechanism of Opinion Dynamics in Web Forums,” the 11th Annual INAS Conference, Stanford University, Stanford, CA, U.S., June 2018.
- Takikawa, H. and Nagayoshi K., “Do Echo Chambers Exit on Japanese Twitter?” CeDEM Asia 18, Yokohama, Japan, July 2018.
- Takikawa, H., Inagaki, Y., and Obayashi, S., “Online Randomized Experiment on Social Influences upon Behaviors in Web Forums,” the XIX ISA world congress of Sociology, Toronto, Canada, July 2018.
- Nakai, Y. and Takikawa, H., “Triadic Social Structure Facilitates Backing for Crowdfunding Projects,” 2018 IEEE International Conference on Big Data, Seattle, WA, U.S., December 2018.
- 瀧川裕貴,「AI は社会学理論の構築に資するか？」第 92 回日本社会学大会シンポジウム「AI と社会学の未来」, 東京女子大学 (東京), 2019 年 10 月
- 瀧川裕貴,「計算社会学は因果メカニズムの解明に役立つのか」第 92 回日本社会学大会, 東京女子大学 (東京), 2019 年 10 月
- 瀧川裕貴,「デジタル社会調査の可能性」第 34 回人工知能学会全国大会 (招待講演・チュートリアル (OS-1 計算社会学特別企画)), オンライン, 2020 年 6 月
- 瀧川裕貴, 稲垣佑典, 呂沢宇, 中井豊, 常松淳, 阪本拓人, 大林真也,「COVID-19 流行下における社会・家族関係と感情変化の検討」第 11 回横幹連合コンファレンス, 統計数理研究所 (オンライン), 2020 年 10 月
- 瀧川裕貴, 呂沢宇, 中井豊, 常松淳, 阪本拓人, 大林真也,「新型コロナウイルス感染症流行下における感情ダイナミクスの経験サンプリング法に基づく検討—社会・家族関係の感情に及ぼす効果」第 93 回日本社会学, 松山大学 (オンライン), 2020 年 10 月
- 瀧川裕貴・永吉希久子,「日本の twitter におけるイデオロギーによるオーディエンスフラグメンテーション」第 70 回数理社会学大会, 慶應義塾大学 (オンライン), 2021 年 3 月
- 瀧川裕貴,「ソーシャルキャピタルと社会秩序」第 1 回日本社会関係学会, オンライン, 2021 年 3 月
- Takikawa, H., “Effects of Family and Social Interaction on Mental Well-being in Populations under Social Distancing Restrictions during the COVID-19 Pandemic,” the 13th Annual INAS Conference, Online, May 2021.

(5) 翻訳

Salganik, M., 2018, *Bit by Bit: Social Research in the Digital Age*, Princeton University Press.

(瀧川裕貴・常松淳・阪本拓人・大林真也訳, 2019, 『ビット・バイ・ビット—デジタル社会調査入門』有斐閣, 470 頁)

(6) その他

瀧川裕貴, 2008, 「リベラリズムと「社会的なるもの」の規範理論」『創文』第 514 号:6-9. (小論)

瀧川裕貴, 2008, 「書評 Martin Nowak, *Evolutionary Dynamics*」日本数理生物学会ニューズレター編集委員会『日本数理生物学会ニューズレター』第 56 号: 16-7. (書評)

瀧川裕貴, 2010, 「K.ビンモアの自然的正義理論について—進化ゲームと交渉理論による正義への接近」『創文』527 号: 50-54. (小論)

定松淳・瀧川裕貴(編), 2010, 『太田朋子オーラルヒストリー』総合研究大学院大学。(インタビュー編集)

瀧川裕貴, 2012, 「尺度の信頼性・妥当性」「反証可能性」『現代社会学事典』弘文堂。(事典項目)

瀧川裕貴, 2012, 「知的感銘を与えうる理論とはどのような理論か?」東京大学出版会『UP』283 号: 22-7. (小論)

Takikawa, H., 2014, Book Review: *Liberalism: Its Achievements and Failures*. By Kazuo Seiyama, *International Journal of Japanese Sociology* 23: 157-8. (書評)

Takikawa, H., 2015, “A Relational Theory of Status Hierarchy: An Extension of Gould Model to Incorporate the Multidimensional Choices,” SSRN <http://ssrn.com/abstract=2816706> (the revised version of the paper presented at The 2013 INSNA Xi'an Conference): 1-23. (査読付き国際会議提出論文)

Takikawa, H. and Paolo, P., 2017, “The Duality Revisited: A New Methodology for Bipartite Networks,” SSRN <http://ssrn.com/abstract=2803062> (the revised version of the paper accepted 10 as oral presentation at American Sociological Association Meeting): 1-47. (査読付き国際会議提出論文)

瀧川裕貴, 2020, 「新型コロナウイルス感染症パンデミック下で社会科学にできることとすべきこと」『理論と方法』vol. 35 (2): 281-3. (小論)

### 3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

千葉工業大学社会システム科学部非常勤講師 (2009 年度前期・後期)

青山学院大学理工学部非常勤講師 (2009 年度後期・2010 年度後期)

東京工業大学工学部非常勤講師 (2009 年度後期・2010 年度後期)

横浜市立大学国際総合科学部非常勤講師 (2010 年度前期)

法政大学大学院政策科学研究科非常勤講師 (2011 年度集中)

東京大学文学部非常勤講師 (2020 年度集中)

(2) 学会活動・社会貢献

日本社会学会

数理社会学会 (研究理事: 2021 年～現在)

計算社会科学会 (幹事: 2021 年～現在)

International Sociological Association, the Social Science One (Harvard University)

IEEE Big Data (Program committee member, 2017)